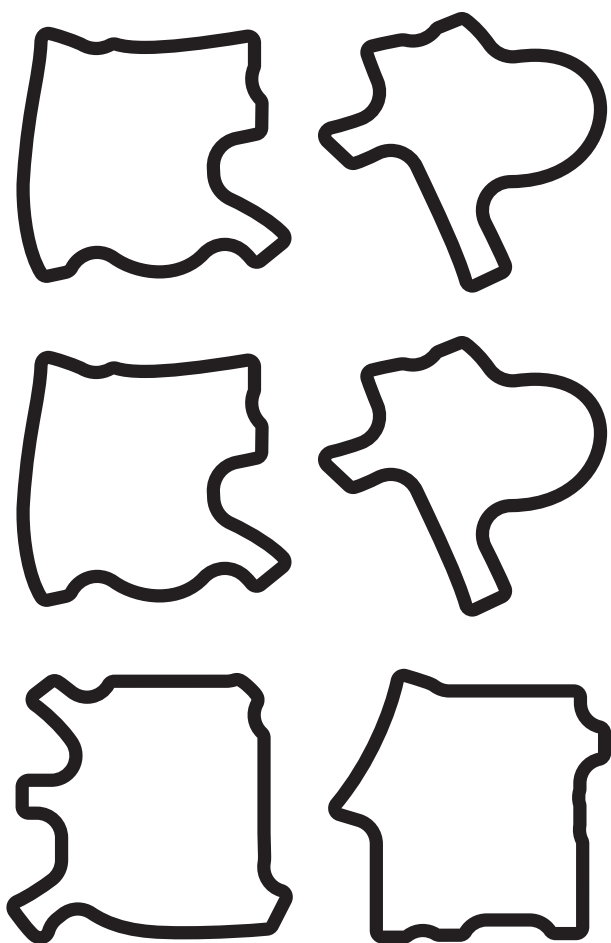




ほやほやっうしん

01

ごあいさつ ——— かまいしこども園の活動紹介と、子どもたちへの遊びのきっかけを盛り込んだフリーペーパー「ほやほや通信」をお届けします。ホヤといえば、釜石市民におなじみの海産動物を思い浮かべるかもしれませんが、「ほやほや」という言葉には、【①でき上がったばかりで、柔らかく湯気の立っているさま。②その状態になったばかりであるさま。③声を出さず、にこやかに笑うさま。ほくほく。】といった意味があります。かまいしこども園と子どもたちが生み出す“ほやほや”な出来事をお召し上がりください。



- 02 インタビュー | かまいしこども園の現在地
藤原けいと園長・金子健一業務執行理事兼事務局長
- 04 風クラゲ | 大西健太郎
- 06 遊びのミックス
きむらとしろうじんじん・りんめい・たろう・先生たち
- 08 活動報告 | 「プチぐる」レポート

かまいしこども園の現在地



2020年8月27日

園長
藤原けいと業務執行理事兼事務局長
金子健一

東日本大震災で被災後、仮園舎での再開を経て、かまいしこども園が開園して5年が経ちました。子どもたち一人ひとりの育成を見守ってきた先生たちを代表して、藤原けいと園長と金子健一業務執行理事兼事務局長に、こども園のこれまでの歩みとこれからの展望について、東京からリモートでつないでお話をうかがいました。

聞き手・構成：小林英治

釜石保育園からかまいしこども園へ

—— かまいしこども園の前身は釜石保育園ですが、さかのぼると最初はバプテスト教会内の幼稚園として始まったようですね。

藤原 昭和元年に牧師先生が開園したのが最初と聞いています。

金子 社会福祉法人としては平成10年に法人化し、平成11年4月に「釜石保育園」という名称になりました。その後、東日本大震災で園舎が全壊したのですが、元「南幼稚園」の園舎を借用して再開し、平成24年に認定こども園[*1]の設置を決め、平成27年4月に「かまいしこども園」を現在の場所に開設しました。

—— 金子先生は、もとは市の職員だったということですが。

金子 はい。職員としてさまざまな部署で仕事をしましたが、平成16年から釜石市の公立の保育園に3年ほどご厄介になって、所長補佐と所長を務めました。東日本大震災の翌年の3月に釜石市役所を定年退職しまして、お誘いいただいていた

こちらの園で平成24年4月から現職に就いています。

藤原 金子先生が市の保育園にいらっしゃった時期に、いろんなアドバイスをいただいていた。それでぜひうちの施設へ事務局長としてきてほしいというお話をしていたという感じです。

—— 具体的にはどういったお仕事をされているのでしょうか？

金子 私の役割というのは、まずは震災でなくなった園舎をどうするか、新しく改築するのか、移転するのか、そういったことを調整して決定することでした。本来建物を建てて軌道に乗れば終わりだったんですが、どういうわけか今までおまして（笑）。現在の主な仕事は、職員が働きやすい環境をつくることです。職員には、自分で勉強したいということは積極的に取り組ませようという方針で、5年経って今ようやくその芽が開いてきたという感じです。それから、理事長は常勤ではありませんので、運営全

般の業務を私が代わって処理をさせていただいています。

藤原 金子先生が法人の方の業務全般をやってくださっているおかげで、私たちは施設の教育・保育を中心に動けるので、今の体制はとても機能しているなと思っています。時々、お互いの領域に入ることもありますけど、それもまたうまくやっていく秘訣のひとつなのかなと。

金子 2人とも原点には利用者のための良い形をということがありますので、経営が主とか教育・保育が主ではなく、いろんな議論をしたとしても、最終的にはその原点に落ちつくので、これまで望ましい形でできてるのかなと思います。ただ、若い職員が中心ですので、園長としては先輩の保育教諭と若い先生たちとのギャップを埋めるのに苦労してるなという感じは持っていますが、若い職員が多いということは、逆に考えると5年先、10年先にはもっとよくなる可能性があるということなので、個人的には大いに期待しています。

*1 認定こども園は、教育・保育を一体的に行う、従来の幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設で、平成18年に改正認定こども園法に基づいて創設された（平成24年に一部改定）。「就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能」と「地域における子育て支援を行う機能」の両方を備え、認定基準を満たす施設は都道府県等から認定を受けることができる。幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型の4タイプがあり、かまいしこども園は幼保連携型認定こども園。

子どもたちの一人ひとりの命を守るために

—— かまいしこども園の建物は、廊下がなく各部屋を中央のホールでつないでいるのが印象的です[*2]。建てるときに要望などはされたのでしょうか？

金子 私としては、二階建てにはしたくなかったのと、敷地が狭いので無駄なスペースをなくしたかったという気持ちが最初からありました。建物本体は市が計画して発注したのですが、結果的に設計士さんと私の考えがある程度一致しましたので、廊下をなくして、どこからでも中央のホールにアクセスできる今の形になりました。

藤原 ホールは普段何もないときはフラットにして走り回って遊べる広いスペースになりますし、お客さんが来て歌を歌ったりするときは可動式のステージを高くして舞台がつくれます。真ん中にカーテンがあるので、カーテンの内と外で2つに分けて活動することもできるし、お昼寝の場所にもなります。四角い空間でないがゆえにいろんな使い方ができていると思いますね。

金子 あと、今は若い先生たちからの発案でランチルームをやっています。

藤原 年齢に関係なく、基本はどこに座って食事をしてもいいというスタイルです。好きな友達と食べたり、年上の子と一緒に座ったり、今日はひとりがいいと言った

り。みんないろいろで面白いなと思って見えています。

—— 調理をする給食室が外から見えるようになってのも特徴ですね。

藤原 やっぱり食べるものの材料とか、給食の先生たちがどうやってトントンと切ってるかとか、食事が作られる過程も全部見た上での食育のかなという考えがあるので、窓を大きくしたいというのは最初からの希望でした[*3]。

金子 皆さん見える形を取れば安心するんです。ですから、学校でよくあるように隅の方ではなく、玄関を入ったらすぐ子どもの目線で見える場所にしました。

藤原 最初は見られるのに抵抗ある方もいましたけど、今はもう給食の先生たちも慣れて、子どもたちが覗くと逆に「見て！」という感じでやってくれています（笑）。

—— 園としては「環境や遊びを通して自ら学ぶ」ということを教育・保育の方針として掲げられています。

藤原 遊ぶのが仕事と言ったら変ですけど、就学前の年齢の子どもたちというのは、遊びが全てだと思うんですよ。うちの園ではお茶をやったり英語をやったりもしていますが、それも子どもにとっては遊びと捉えて、その中で学んでいってほしいです。

地域の子育て支援の拠点をめざして

—— 園と隣接する復興住宅の方たちとは、毎朝ラジオ体操と一緒にされてるらしいですね。

藤原 フェンスを隔てて、子どもたちは復興住宅に向かって、復興住宅の方は園の方を向いて向かい合ってやる形ですが、もう4年目になります[*4]。復興住宅に入居してる方たちは、震災後に仮設住宅に入ってた方も多く、仮設にいるときから子どもたちとの関わりがあるんです。住居は新しくなったけど、それでもなお子どもたちと関わってお互い元気づけ合いたいという気持ちがあります。体操以外にも、毎日おじいちゃんおばあちゃんと子どもたちの間でちょっとした触れ合いがあるんですよ。ラジオ体操は1日のうちのたった5分間なんですけど、そういった関わりの積み重ねが大事なことかなと、すごく思いますね。

—— そこには、かまいしこども園の未来へのヒントがありそうです。

藤原 認定こども園には、教育・保育の他にも、地域の子育て支援をするということが役割の一つとして入っているんですね。それは保育園や幼稚園では謳われて

なかったことで、今うちの園には「子育て支援センター」を設置していますが、個人的にはそこだけで満足しない支援の形を考えています。「地域」というのはこの園の周りなのか、いやもっと広い町内じゃないかとか、いやいやもっと広い釜石市内全般じゃないだろうかと考えていくと、やっぱり釜石市の地域全体の子育て支援をしていく施設でありたいなと思うんですね。まだちょっと夢に近いんですけど、そうなれたらいいなと他の先生たちとも話しています。

金子 子育て支援を園の中だけではなく、もっと地域に入っていくってお手伝いできないかなということですよ。

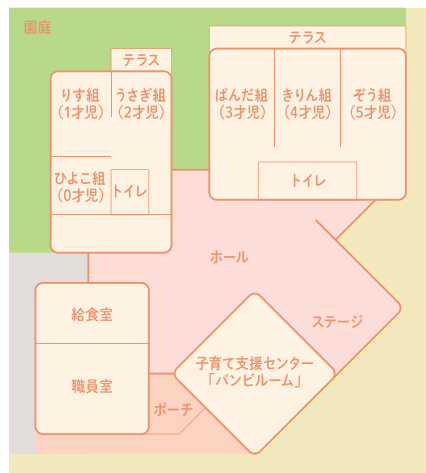
藤原 例えば、まだ子どもがいなかったり、お腹の大きかったりするお母さんたちとも、「調子はどう？」とか、「生まれたらこうですね、ああですね」なんていうような関わりもあっていいよとか。「かまいしこども園に行く子育てのことが教えてください」と知ってもらえるようになるとか。そういうふうに地域全体のための子育て支援ができればいいなと思っています。在園している子どもたちも、預っている時間

金子 私は仕事をする上でも、「遊びを知らない人は仕事ができない」と思っています。とにかく見たり聞いたり出かけたりして、何でもチャレンジしてみれば、それだけで一歩進んでというのが私の考えです。だから先生たちは自分がやりたいことをとどんでやってほしいし、その機会を作ってあげるのが我々の仕事かなと思っています。

—— 普段から園の先生たちに伝えていることはありますか？

藤原 どんなときでも一人ひとりを大切に教育し保育することですね。例えばクラスに20人いて、20人一斉に何かしましよーというときも、集団としてではなく、その中で一人ひとりを見るということを大切にしたいという話は先生たちにいつもしています。

金子 こども園を建てるうえで、「子どもの命を守る」というのはひとつの目標として頭に据えていました。それは危険なことから身を守るということだけではなく、園の中でも子どもたち一人ひとりの尊厳を守ることです。職員にもそこだけは徹底して意識づけしていきたいですし、私の方からも話をするようにしてます。



*2 かまいしこども園の施設マップ



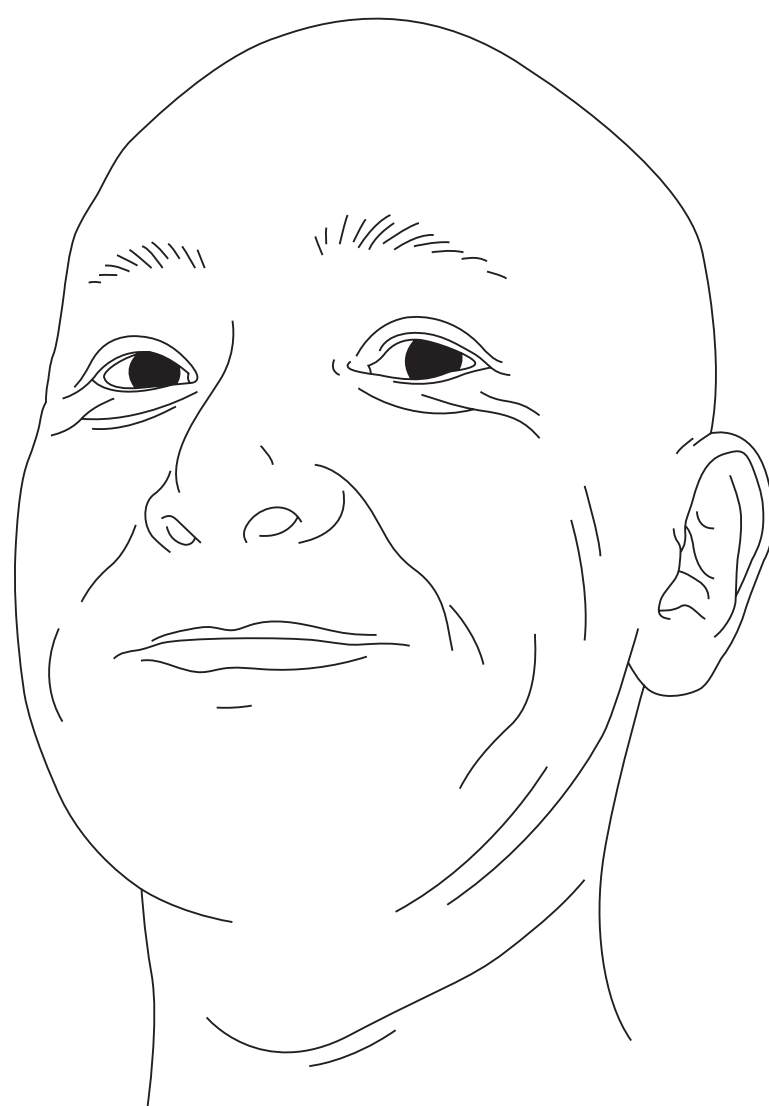
*3 給食室の調理の様子を観察する子どもたち



*4 園の隣の復興住宅の入居者と向かい合ってラジオ体操をする子どもたち

きむらとしろうじんじんさん とぬりえであそぼう

じんじんさんの顔にいろんな色で
おけしょうをしてみよう。



きむらとしろうじんじん

美術家。1995年より移動式の陶芸お抹茶屋台「野点(のだて)」をスタート。路上、空き地、公園など、さまざまな土地と風景の中で開催しつづけており、2012年より大槌や釜石でも実施。2016年度より、かまいしこども園で行っている「ぐるぐるミックス in 釜石」の講師を大西健太郎とともに務める。



「宮古島の原田さんから毎年たくさんのマンゴーをいただきます。ぞう組の子どもたちは、種を植えてみようとか乾燥させ皮をむいたら、ポテトチップスそっくり! ドッキリのあとは土に植え、現在はすくすくと成長中です。」

絵と文：藤原けいと(ふじわら・けいと)園長

遊びのミックス

たろうの日記

名前：たろう 犬種：柴犬 飼い主：アットマークリアスNPOサポートセンターの川原さん
性別：♂ オス 年齢：4歳7カ月 性格：小心者でおこりんぼう



8月9日(日) ごご

暑かったので、お家のちかくの甲子川(かつしがわ)に、涼みにいきました。アユを釣っている人がいたよ。



8月10日(月) あさ

かまいし市ないのお寺へ、おとうさんとお盆まえのお墓そうじ。でも、とちゅうであきちゃった…。



8月15日(土) よる

お盆のよる。お家の前でまつあかしの火を、少しはなれたところから、じーっと見つめていました。



8月16日(日) ゆうがた

かまいし港まで散歩に出かけました。海を見ながら、犬としてどう生きるべきか考える、フリをしてみました。



りんめいさんのミックスクッキング ——親子で協力してつくってみよう——



キュウリののり巻き(ワサビ味・ショウガ味・梅味)

【材料】	キュウリ	1本	チーズ入りかまぼこ	1本
	のり	1枚	じゃがりこ	数本
	カニカマ	1本	ワサビ・ショウガ・うめ(チューブ状のもの)	適量
	プロセスチーズ	1個		

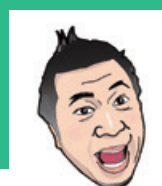
【つくり方】

- ① キュウリを洗って5センチくらいの長さに切り分け、それぞれを縦4等分に切る。
- ② カニカマ、チーズ、チーズ入りかまぼこをキュウリの長さに合わせて切る。
- ③ のりを5×5センチの大きさに切る。
- ④ キュウリとカニカマ(チーズ、チーズ入りかまぼこ、じゃがりこ)と一緒にのりに巻く。巻き終わりにワサビなどお好みの調味料を塗ってくっつけます。

- ⑤ 巻き終わりを下にして、お皿に並べて完成!

※ お好みで、醤油やマヨネーズを付けてお召し上がりください。

りんめい
看護師、調理師、食生活アドバイザー。
こども園のぐるぐるミックスや屋外行事などでもお手伝いをしていただいています。FMねまらいんにて毎週木曜18:10から「りんめいのわっぱがクッキング」を放送中。



活動報告 8月のプチぐる

「ひやっと冷たいThe Summer夏のお絵描き」

対象：ぱんだ組（3歳児） プログラム考案：小原陽香先生

8月18日（火）

食紅でカラフルに色づいた氷を手し、園庭に広げられた模造紙と遊具に巻き付けられた障子紙に、自由に絵を描いて楽しみました。子どもたちは、溶けた氷水を自分の手に塗って手形をとったり、水性ペンで描いた線の上をとなりの子が氷でなぞって色をにじませたり、思い思いのやり方で遊びを生み出していました。「気温が高かったので短時間の活動になりましたが、日差しの暑さと氷の冷たさを同時に感じながら、夏ならではの素材を使って子どもたちがじゅうぶん楽しめたと思います」（小原陽香先生）。「ふだんは手が汚れるのを嫌がる子が、となりの子が氷で楽しく遊びはじめるのを見て好奇心を刺激され、最後には顔までインクがつくくらい楽しんでたのが印象的でした」（佐々木瑠美先生）。活動後はみんなでプールに入って、汗と汚れを落としてさっぱりしました。



「スライムであそぼう！」

対象：うさぎ組（2歳児） プログラム考案：太田有衣先生

8月21日（金）

机ごとに用意された洗面器に、洗濯のりとホウ砂と水を入れ、かき混ぜてスライムを作りました。ホウ砂水を「魔法の水」と紹介することで期待を持たせ、混ぜると透明な液体が固まっていく様子に子どもたちがはしゃぎながら喜んでいました。できたスライムに絵の具を加えて色をつけ、一人ずつに配ると、自由に伸ばしたりちぎったりしながら、生き物のようなスライム独特の感触を楽しみました。さらに後半は、色違いのスライムを混ぜたり、ビーズを加えたりしても遊びました。「魔法の水を入れてどんどん形が変わっていく様子を、子どもたちがウワーッと驚いてくれたのが嬉しかったです」（太田有衣先生）。「2歳児のクラスと思えないくらい子どもたちが落ちついていて、しっかり話を聞いて、遊んでいたのに感心しました」（園長先生）。最後は、自分のスライムを紙コップとビニールに入れて持ち帰りました。みんなお家でも遊んでくれているかな？



※「プチぐる」は、各クラスの先生が、通常の教育・保育の時間とは別に、子どもたちの成長段階に合わせて独自のプログラム考案して取り組む特別な遊びの時間です。

編集後記

「ほやほや通信」01号、楽しんでいただけましたでしょうか。「ほやほや通信」は、東京都が公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京と共催する東日本大震災の被災地域（岩手・宮城・福島県）を対象とした事業、Art Support Tohoku-Tokyo [東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業]（ASTT）の取り組みの一環から生まれました。かまいしこども園ではASTTの枠組みを活かして、東京都台東区を拠点にアートプロジェクトを企画運営する一般社団法人谷中のおかってが実施していることも創作教室の手法を取り入れた「ぐるぐるミックスin釜石」を、2016年度から実施しています。今年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため、東京から釜

石を訪れることを控えて、ASTTのプログラムに協働し現場のコーディネートとサポートを務めてくださっている特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンターの方々も交えて、春先からオンラインでのミーティングを重ねてきました。その中で、かまいしこども園の活動を紹介したり、紙面を通して子どもたちに「遊び」をはたらきかけたりする新聞をつくってみよう!ということになりました。今回の01号を含めて、今年度中に計3回の発行を予定しています。12月末発行予定の02号では、「ぐるぐるミックスin釜石」を特集します。どうぞご期待ください。

ほやほや通信 01

発行： 2020年10月1日
制作： 社会福祉法人愛泉会 幼保連携型認定こども園 かまいしこども園
<http://kamaishi-kodomoen.jp>
一般社団法人 谷中のおかって
<http://okatte.info>
発行元： 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
編集長： 小林英治
アートディレクション&デザイン： 大原慎也（ARROW MARK）
協力： 特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンター
特定非営利活動法人いわて連携復興センター
印刷： 株式会社 中部共同印刷
お問い合わせ先： 一般社団法人 谷中のおかって contact@okatte.info

「ほやほや通信」 編集長 小林英治

文化でつながる。未来とつながる。
TokyoTokyo
FESTIVAL

ARTS COUNCIL TOKYO

Yanaka-no-Okatte